



中村敦夫朗読劇 線量計が鳴る 愛媛・香川連続公演

2020年2月22日～2月24日

世界有数の生物多様性と生物生産力を誇る瀬戸内海という宝の海に、温排水と放射能を垂れ流し、そこに生きる全ての生命の生存を脅かし、数多の生命を奪い続けているのが四国の伊方原発です。半世紀前、四電は札束の力で地域住民を分断し、その意志を踏みにじり、佐田岬半島の付け根にこの原発を建設しました。

これに対し住民は、国と四電を相手取り、伊方原発設置許可取り消しを求める住民訴訟を起こしましたが、公正を欠く裁判により住民側の敗訴に終わりました。しかし不幸にも、この裁判の過程で主張された住民たちの危惧は、2011年3月11日の福島第一原発事故によってことごとく現実のものとなりました。

政府は福島の事故を東京オリンピックや天皇即位祝賀モードで覆い隠し、8年余りが経過した今、この国では、まるで事故などなかったかのようです。中村敦夫さんはこの状況に危機感を抱き、自らの俳優、作家、国会議員といった経歴で培った社会・政治哲学から、福島の事故の現実や原発の恐ろしさを劇によって人々に伝えようと決意し、この「線量計が鳴る」を作り、各地で公演を続けています。

私たちは、原発は全ての生命にとって到底共存できるものではなく、社会を壊し、未来を奪い去るものであると考え、中村敦夫さんの活動に心から共感し、朗読劇「線量計が鳴る」の四国での公演を企画しました。原発は核の平和利用どころか、沖縄にある基地や米軍駐留の問題、さらには核武装の問題と切っても切れない関係にあります。私たちの生命、子どもたちの未来を脅かす原発や基地というものに対して、私たちの一人一人が「NO!」の声を上げる必要に迫られています。

今回の企画は、こうした思いを共有して活動を続けてきた市民のつながりから生まれました。半世紀前、地域住民を分断した四電の行為そのものが、今、四国全域の市民をつなげています。私たちはこの公演が、新しいつながりの出発点になることを願っています。

「線量計が鳴る」連続公演 愛媛・香川実行委員会



中村敦夫 (なかむらあつお) さん略歴 俳優・作家

1940年東京生まれ。福島県に疎開して小・中学校時代を過ごす。東京外国語大学中退後、劇団俳優座に入団。アムネスティ・インターナショナル日本支部設立に携わる。1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームになる。脚本や演出も手がけ、小説「チェンマイの首」がベストセラーに。キャスター、参議院議員、大学院講師なども務め、現在は日本ペンクラブ理事、環境委員。著書「簡素なる国」「ゴミを喰う男」など多数。

■ 愛媛県今治市会場	■ 愛媛県松山市会場	■ 香川県高松市会場
2020年2月22日(土)	2020年2月23日(日)	2020年2月24日(月休日)
開場 13:30 開演 14:00 終了 16:00	開場 13:30 開演 14:00 終了 16:00	開場 13:30 開演 14:00 終了 16:00
大西公民館 今治市大西町宮脇甲 506-1	松山市民会館 小ホール 松山市堀之内	香川県社会福祉総合センター 高松市番町1丁目10番35号1階
問合せ先 (077-817-1122 (代))	問合せ先 (089-824-1270 (代))	問合せ先 (087-822-1111)
運営 瀬戸内海の自然環境と生物資源を愛する会	運営 原発さよなら四国ネットワーク	運営 脱原発アクション in 香川

■ 料金 前売り 2000円 当日 2500円 大学生以下 1000円 小学生以下・介助者 無料

前売りチケットは kyoudoukoudou@gmail.com へお申し込み下さい。その他お問合せは各会場の問合せ先へ。

■ 後援 コープ自然派しこく / ♀ 女性会議 / 未来を考える脱原発四電株主会 / 伊方原発をとめる会 / 市民の広場 / STOP! 伊方原発南予連絡会 / 原発をなくす香川の会 / NPO 法人共生ネットワーク / グリーン市民ネットワーク高知 / 新日本婦人の会香川県本部 / かめさん文庫 / ぼちぼち文庫 / ほっとさろんずの会 / 生き活き政治ネット / 福島原発事故避難者裁判を支える会・えひめ / ゆうき生協 ■ 愛媛会場後援 朝日新聞松山総局 / 読売新聞松山支局 / 毎日新聞松山支局 / 愛媛新聞社 ■ 香川会場後援 朝日新聞高松総局 / 読売新聞高松総局 / 毎日新聞高松支局 / 四国新聞社 / 愛媛新聞社 (順不同)